

投資導入

2003年に誘致した企業は34社、認可投資資金は60.5億台湾ドルで、認可済み進駐企業は累計127社、認可済み投資金額累計は12,868.7億台湾ドルで、オプトエレクトロニクス産業31社、精密機械31社、バイオテクノロジー25社、集積回路22社、情報通信14社、コンピュータ周辺2社、その他2社となり、徐々に産

業が集まり、競争に有利になっている。認可入居企業のうち、すでに55社が量産し、19社が着工中である。

全体の売上高は1998年の1.1億台湾ドルより大幅に成長し2003年の1,553億台湾ドル、2003年の成長は50.63%となっている。

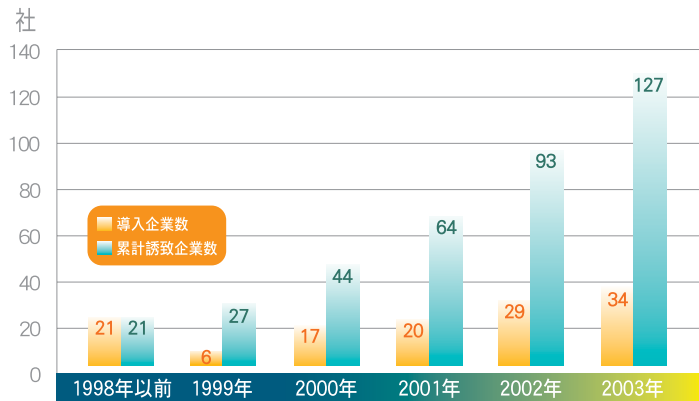


図 5-1-1 歴年累計認可企業数

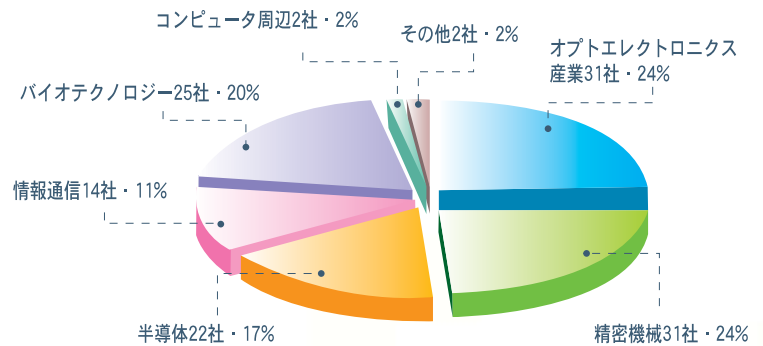


図 5-1-2 産業別認可企業数累計

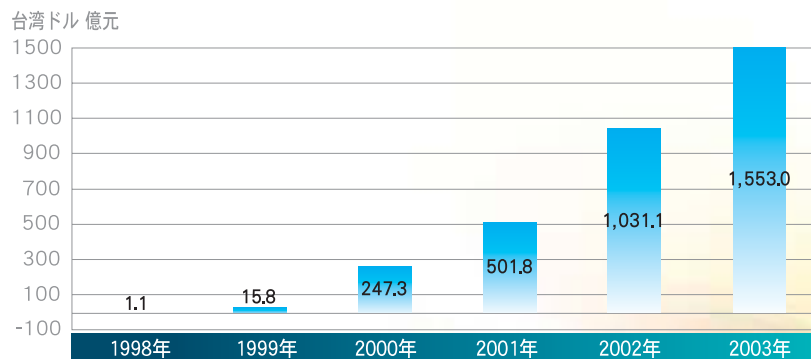


図 5-1-3 歴年企業売上高

就業人口は毎年大幅に成長しており、2001年は経済不景気にも関わらず、当年2,561人増加、成長率は37%に達した。2002年は5,604人増加、2003年は6,303人増加、21,374人に達している。この2年の就業人数成長率は平均50%である。

就業人口の各産業別比率はオプトエレクトロニクス産業が58.8%と最高で、その次が半導体産業29.4%となっている。

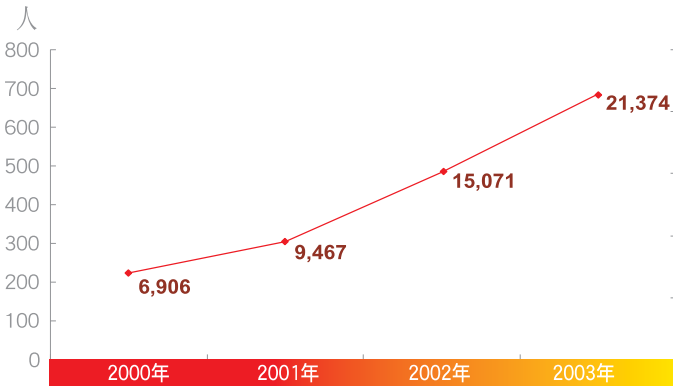


図 5-1-4 歴年就業人数

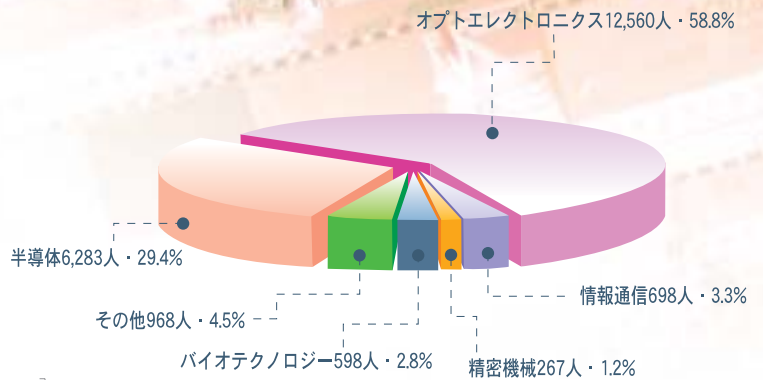


図 5-1-5 各産業就業人数

新しい研究開発の奨励

新技術の研究開発こそがハイテク産業の競争力を生む。本局では園區事業が新技術研究開発に従事するのを奨励するため、2001年から研究開発奨励金を出し、導入企業が研究開発に従事している。2001、2002、2003年とそれぞれ2,100万台湾ドル、2,400万台湾ドル、2,400万台湾ドルを準備し、それぞれ8、7、10案が認定され補助を受け、企業が5,491.3万台湾ドル、4,535.1万台湾ドル、6,352.8万台湾ドルを投入した。奨励研究開発の成果として、国内外で得た特許が11、新製品開発による売上高が累計9億3,311.4万台湾ドルと、大いに成果が上がっている。

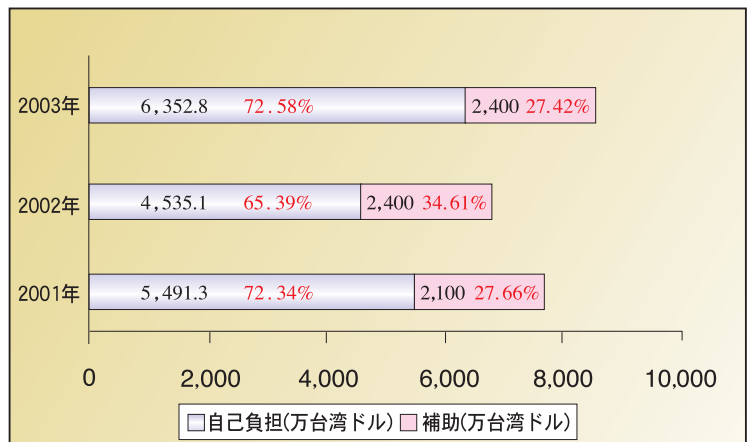


図 5-1-6 歴年創新研究開発奨励



産業集積

半導体産業集積

南科の半導体産業では、2003年までに22社が認可され、ICデザイン、ウエハ製造、パッケージテスト、半導体設備などがある。すでに半導体産業のサプライチェーンが建立されており、園区内に台積電(Taiwan Semiconductor Manufacturing Company, TSMC)の世界最大の8インチウエハ工場が量産を開始した。なお、2基の12インチウエハ工場も完工し、設備の搬入を開始した。

聯電 (United Microelectronics Corp., UMC) 12インチウエハ工場はすでに量産し、南科で中央研究開発センターを成立している。南科は12インチウエハ工場が最も密集し製造技術が最先端のサイエンスパークとなっている。

2003年半導体産業売上高は608.99億台湾ドルと、2002年と比べ56.46%成長している。

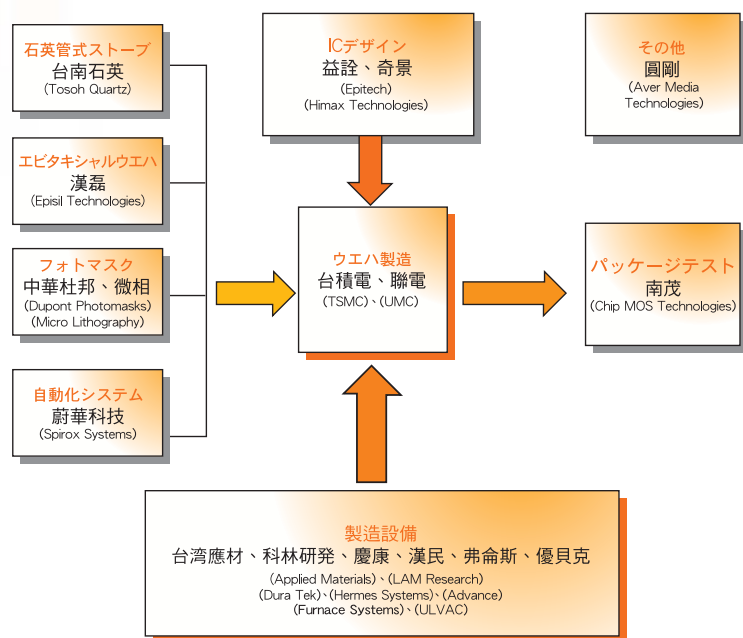


図 5-1-7 半導体産業集積

オプトエレクトロニクス産業集積

南科は国内TFT-LCD産業が垂直に統合された最も完璧な集落で、ガラス基板、カラーフィルター、CCFL (冷陰極管)、偏光板、バックライトモジュール、ドライバICなど川上の部品から、川中のパネル、川下のLCD-TVにいたるまで31社に達している。奇美 (Chi Mei Electronics) 及び瀚宇彩晶 (HannStar Display) はすでに量産工場を設置し、合計199ヘクタールの工場建設用地を賃貸しており、続いて六世代或いは七世代パネル工場を建てる予定で、南科は台湾が全世界的にフラットパネル産業のリーダーとなる過程で、重要な役割を演じている。

2003年オプトエレクトロニクス産業売上高897.18億台湾ドルで、2002年と比べ71.43%成長している。

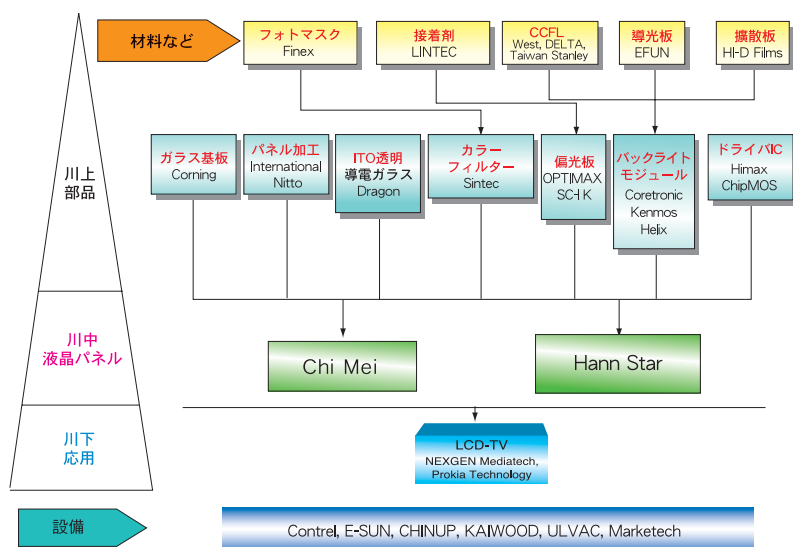


図 5-1-8 オプトエレクトロニクス産業集積

人才育成及び産業界と学界の合作

バイオテクノロジー産業集積

南科はバイオテクノロジー時代を迎えるため、産業界、行政院農業委員会（以下略して農委會）畜産試験所、南台湾各大学、中研院バイオテクノロジー実験センター、アジア野菜研究センター等産官学研の研究開発資源を結合した他、高鉄沿線に合計45ヘクタールのバイオテクノロジー専区を計画し、バイオテクノロジー製薬生産標準cGMP符合の工場を建設し、南科が南台湾バイオテクノロジー産業重鎮として発展するよう目指している。2003年までにすでに25社のバイオテクノロジー会社が入居している。

2003年、南科バイオテクノロジー産業の売上高は5.29億台湾ドルで、2002年と比べ116.38%の成長となった。

南科企業が専門技術人才を育成するための在職訓練を援助し、産業研究開発能力を伸ばすため、2003年オプトエレクトロニクス、半導体、バイオテクノロジー、情報通信等の訓練課程を開設し、計 16クラス、864人の参加があった。中華民国南部科学園區産学協会と協力し、2003年、バイオテクノロジー、半導体、オプトエレクトロニクス及び情報通信等四つの推進委員会を設置、各委員会による学术界と園區業界の技術及び人才交流の促進が望まれる。

研究開発資源を統合し、更に多元化した育成環境を提供するため、經濟部中小企業処は台南園區に1.5ヘクタール、



図 5-1-9 南科育成センター

1,200坪強を占めるハード/ソフトウェアが揃った南科育成センターを設置、2003年11月16日オープン式典を開き、産官学研を統合した育成サービスプラットフォームを提供した。

国家高速インターネット及び情報処理センターに続き、国家チップシステムデザインセンター、国家ナノデバイス実験室及び工研院南科院区等が次々と入居、2003年、中正大学及び成功大学研究開発センターが入居認可を申し込み、技術情報及び公共資源の共用を提供、その中で中正大学研究開発センターは2003年11月16日オープン式典を挙行了した。



図 5-1-10 国立中正大学研究開発センターオープン式典

表 5-1-1 バイオテクノロジー集積

産業類別	大手企業	集積した企業
バイオテクノロジー	台湾神隆 (Scino Pharm)	ワクチン製造4社：桐核麥 (Tuck-More Biotechnology)、景岳 (Gen Mont Biotech)、德英 (G&E Herbal Biotechnology)、台岳 (Tai Mont Biotech) 試剤検査6社：唐誠 (Tanasia Pharma)、亞洲基因 (Asia Gen)、榮睿 (Oncoprobe Biotech)、聯華 (AS.Pire Bioresearch)、公準 (Gongin Precision) 龍騰 (Long Term Bioresearch) バイオ製薬7社：台湾神隆 (Scino Pharm)、楠桐 (RNA Biotechnology)、神隆生技 (Scino Pharm Biotech) 欣普泰 (Safe Protecta Technology)、儂陸 (Char Sire Biotechnology)、安肽 (Anaspec International) 金穎 (Gene Ferm Biotechnology) 遺伝子体データバンク1社：賽亞基因 (VITA Genomics) 医療用品1社：雙美 (Sun Max Biotechnology) 漢藥方4社：寰生 (Universal Biotech)、喬志亞 (Joja BioTech)、港香蘭 (Kaiser Biological Science)、綠益康 (Green Health Biotechnology)



企業誘致活動

2003年多くの国内外企業誘致及び展示会参加活動を計画し、積極的に南科の企業誘致を強化し、南科の国際的にアピール度を向上させた。

国外企業誘致

2003年、日本、ヨーロッパ及びアメリカ（ロサンゼルス、ヒューストン、シカゴ、サンフランシスコ）に出向き、企業誘致活動を行い、いずれもかなりの大反響を巻き起こした。中でも、ヨーロッパでの日程では、オランダバイオテクノロジー団の興味を引き、2003年10月、同団体が南科を訪れバイオテクノロジー企業と直接交流を行った。その他、アメリカでの誘致イベントでは、アメリカのメディア約25社が南科企業誘致活動をニュースとして取り上げ、本局はアメリカの企業と提携備忘録に契約した。

国内企業誘致説明会

2003年、台中金典酒店、高雄国賓大飯店の二ヶ所で企業誘致説明会が行われ、300社以上の企業が会場を訪れ、約20社の企業から後日入居についての潜在投資案について相談があった。



図 5-1-11 オランダ代表と高雄県長、台南県長及び本局戴局長合影



図 5-1-13 オランダバイオテクノロジー団の南科訪問



図 5-1-12 シカゴAOI社、MOUにサイン

国内展覧会への参与

2003年5月、台湾バイオテクノロジー大展及び7月Bio 2003バイオテクノロジー展に参加し、園区バイオテクノロジー企業が集結し、南科バイオテクノロジー館を計画、南科バイオテクノロジーの

実力を見せ、展覧に合わせて、バイオテクノロジー論壇を行った。

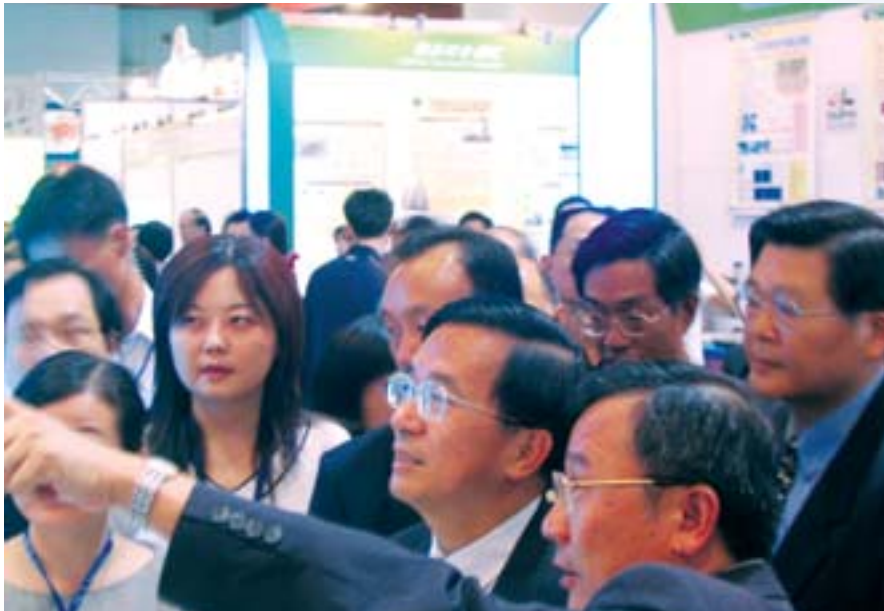


図 5-1-14 Bio 2003 バイオテクノロジー展

業務を進める

2003年10月、国際企業誘致大会会場は、南科の近年のスピーディな成長を概念にデザインし、南科東大門口にあわせて、南科が経済をリードする象徴として、会場には国外企業が入居の相談に足を運んだ。



図 5-1-15 国際企業誘致大会

2003年、南科製品展示室が完成、南科訪問客に南科各産業発展をさらによく理解してもらえるようになった。その他文章による宣伝、ビデオコマーシャル及び紹介CD-ROMを作り、南科の美しい記念切手を発行した。

2003年China Post（南科英文ニュース）、Nikke Magazine（南科オプトエレクトロニクス日本語ニュース）及び光華雑誌（南科中、英、日、仏文ニュース）等メディアを呼んで特別報導を行い、国際企業誘致期間、フランス、ドイツ、オランダ、イタリア、ブラジル、日本及びアメリカ等の国外メディア共20多社を南科に取材に招待した。

国内外訪問客接待

2003年4～6月にかけて、SARSの影響により訪問客が大幅に減ったにもかかわらず、1年間の訪問客は3,597名に達した。

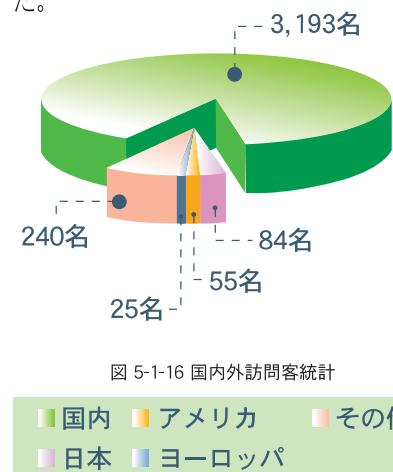


図 5-1-16 国内外訪問客統計